

カンキツ果実腐敗に対するベフラン液剤とベンレート水和剤の混用による効果の向上

[ 要約 ] 緑かび病を主としたカンキツ 果実腐敗に対してベフラン液剤2,000倍とベンレート水和剤4,000倍を混用散布すると、それぞれを単用で散布した場合より高い防除効果が得られる。

長崎県果樹試験場・病害虫科

専 門

作物病害

対 象

果 樹 類

分 類

指 導

平成11年度長崎県果樹試験場業務報告

[ 背景・ねらい ]

県内の極早生・早生温州みかんの主な防除薬剤であるベフラン液剤は耐性菌の発生が見られず、防除効果は高いが、耐雨性が弱く残効が短い欠点があるため、それをおぎなう効果的な防除法について検討する。

[ 成果の内容・特徴 ]

ベフラン液剤2,000倍とベンレート水和剤4,000倍を混用散布した場合、それぞれの薬剤を単用散布した場合より高い防除効果が得られる。

ベフラン液剤2,000倍とベンレート水和剤4,000倍の単用散布の比較では、ベフラン液剤の残効が短い。

[ 成果の活用面・留意点 ]

他のベンズイミダゾール系薬剤のトップジンM水和剤との混用についても効果の検討をする必要がある。

[ 具体的デ - タ ]

表1 「興津早生」の貯蔵病害に対するベフランおよびベンレートの防除効果（虐待処理区）

供試薬剤	累 積 腐 敗 果 率 ( % )					
	収穫10日後		17日後		26日後	
11月24日収穫						
( 収穫 1 4 日前散布 )	緑かび	その他	緑かび	その他	緑かび	その他
ベフラン液剤 1 回散布	2.2	0	9.0	2.2	10.1	2.2
ベンレート水和剤 1 回散布	1.0	0	10.1	0	13.1	1.0
( ベフラン液剤 1 回散布 ベンレート水和剤	2.1	0	3.2	0	4.4	0
( 収穫 7 日前散布 )						
ベフラン液剤 2 回散布	1.1	0	3.3	2.2	3.3	2.2
ベンレート水和剤 2 回散布	2.2	0	4.3	0	4.3	0
( ベフラン液剤 2 回散布 ベンレート水和剤	0	0	0	1.1	0	1.1
無散布	4.4	1.1	7.8	2.2	12.1	6.7
12月6日収穫						
( 収穫 2 6 日前散布 )	緑かび	その他	緑かび	その他	緑かび	その他
ベフラン液剤	0.9	0	33.3	0	38.8	0
ベンレート水和剤	0	0	14.0	0	19.6	0
( ベフラン液剤 ベンレート水和剤	0	0	8.1	0	11.1	0

虐待処理：コンクリートの坂道を 5 m 程度転がした。

当試験圃場において薬剤散布前の果実18菌株について検定した結果，ベンズイミダゾール系薬剤，ベフラン剤のいずれも耐性菌の発生はなかった。

試験期間中の降雨状況

期間	11/10 ~ 11/17	~ 11/24	~ 12/6
降雨日数 ( 日 )	3	4	6
降雨量 ( mm )	44	17	14.5

[ その他 ]

研究課題名：果実腐敗の発生要因の解明と効率的防除法の確立

予算区分：県単

研究期間：平成 1 1 年度 ( 平11 ~ 15 )

研究担当者：小嶺正敬，太田孝彦

発表論文等：平成 1 1 年度果樹試験場業務報告